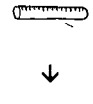
# 一

一年

画数 1
筆順 一
オン イチ・イッ
クン ひと・ひと＝つ

## 成り立ち



〝ひとつ〟のぼうで、〝ひとつ〟といういみをあらわしたものです。これは、どこのくにのもじでもおなじです。ローマ字では〝たて〟にひきますが、〝ひとつ〟のぼうであらわしたことはおなじです。アラビアすう字もそうです。

〔漢字の中国読みを〝音〟という。二つある場合は、たいてい、〝呉音〟と〝漢音〟である。呉音は七世紀前に中国の呉から伝わったもので、方言である。漢音は七世紀に中国のみやこから伝わる。〕

## 使い方

▽おなじ〝一つ〟でも、とりは〝一わ〟、いぬは〝一ぴき〟、うまは〝一とう〟といいます。

## 熟語例

▽一回（〝一回り〟といういみのことばです。一回りするたびに〝一回〟〝二回〟とかぞえました。）
▽一生（〝一生涯〟のことで、「生きているあいだじゅう」といういみ）
▽一流（〝だい一とう〟のいみ。「ぐんをぬいてすぐれている人」をいうのにつかいます。）
▽一石二鳥。▽一心同体。▽一を聞いて十を知る。





# 右

一年

画数 5
筆順 ノ ナ 十 右
オン ウ・ユウ
クン みぎ

## 成り立ち

〝みぎて〟のかたちをあらわした〝ナ（ナ）〟と〝口〟とをくみあわせた字で、「たべものを〝口〟にはこぶ〝て〟」をあらわしました。〝みぎて〟という字で、〝みぎ〟といういみにつかわれます。

中国では、〝右〟と〝左〟とでは、〝右〟のほうが、くらいがうえでしたので、「くらいがうえ」「すぐれている」といういみにつかわれます。また、てでたすける、ということから〝たすける〟といういみにもつかわれます。

〝ナ〟の形は、〝右〟と〝左〟とでは、むかしはちがっていました。それで、かきじゅんがいまもそのしゅうかんでちがっています。

〔ウは呉音、ユウは漢音〕

## 使い方

▽〝右手〟のことを〝馬手〟というのは、右手で馬の〝手づな〟をにぎるからです。
▽〝右岸〟というのは、かわしもにむかって〝右側〟の川岸のことです。

## 熟語例

▽右腕（「右の腕」ということですが、「ぶかのなかで、いちばんたよりになる人」のいみにつかいます。）
▽座右（「座席の右側」ということですが、〝身近〟といういみにつかわれます。例座右の銘（身近においていつもいましめとするかくげん））
▽右文（〝文〟は〝がくもん〟。「がくもんをだいじにすること。例右文左武（武芸よりもがくもんをだいじにすること。））
▽右翼（「右の翼」といういみのことば。やきゅうではライトのこと。フランスのぎかいで、右翼せきに、ほしゅ派のぎいんがすわったことから、〝ほしゅ派〟のいみにつかわれます。右派）
▽右といえば左（なんでもはんたいするたとえ）
▽右に出る者がない（その人よりすぐれた者がいない。）